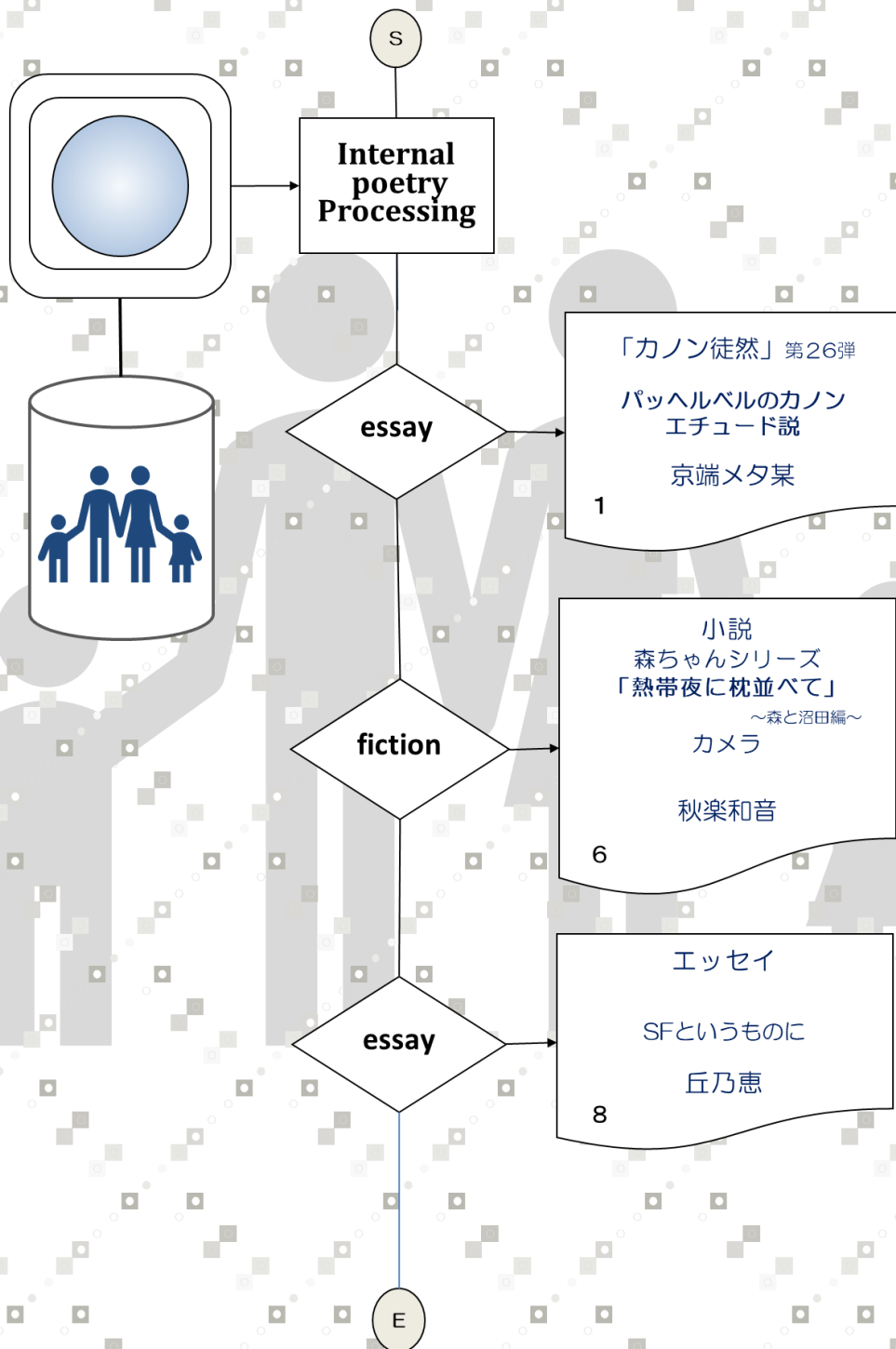


未来世界仕様書 Vol.26 Ver.1.0



未来世界仕様書

Vol. 26 Ver. 1.0

カノン徒然 第26弾

〜パツヘルベルのカノン エチュード説く

京端メタ某

腱鞘炎もよくなったので、2年ぶりにバイオリンをもってみました。

なぜか弓が持てるようになっておりました。

休んでる間に何かが起こっていたらしい。

5本の指が弓にしっくり。特に親指と中指・人差し指。特に親指。力が抜けたのか？

試しに弦をこすってみると、ポコポコとバウンドせず、なめらかに上げ下げできるので、ヤッターって感じです。もちろん完璧ではないのですが、過去と比較すれば段違い。

京端の目標は、難しい曲を弾きこなすことではありません。いい音を出す、そしてカノンを弾く。

ところで、音と押さえ(左手)のリンクは、ところどころ切れておりました。シつてどこだっけ？ あれ、ソつてここじやなかったっけ？

曲を弾くにはおさらいが必要です。

開放弦での音出しのあとには、A線から音階練習。E、D、Gの各弦を、各指で押さえて弓の上げ下ろし。

何事も基本、基本。

年齢とともに基本練習が苦でなくなるのは不思議。

これまでに習った曲も、つまみ食いの的に弾いてみました。カノンも。

それで、発見したのですが、カノンって基本練習向き？

どこがって、しよっぱなは、4分音符の下り音階となつていて、ゆつくり一定速度で弓の上げ下ろし。各8回。次は8分音符となり、少しスピードアップ。弦をまたいだりまたがなかつ

たりの弓使い(スラーの有無で2種の練習が可)、次は16分音符で、細かい上げ下ろしでオクターブの跳躍あり。32分音符では、ひとつの上げや下げの中に複数の音を入れる指と弓の練習。次は休符と交互の短い音、などなど。

スズキ(※)の無窮動やら、ボジションエチュード、ピアノにおけるハノンの匂いをかいでしまいました。

もしや、

もしや、カノンは、練習曲として作曲されたのではなからうか。

パツヘルベルのカノンはエチュード。

安易な妄想か？

※「スズキメソード 鈴木鎮一 ヴァイオリン指導曲集」

これは、バイオリンの定番教科書で、きらきら星変奏曲から始まります。幼児教育を想定していますが、大人初心者も使います。7年前に始まった京端のお稽古は、先生の指示により、「篠崎バイオリン教本」という教科書から入り、スズキメソードの教科書も合わせて使っていました。

きらきら星変奏曲は、スズキメソードの大会では最後に全員で演奏する曲だそう。関係ないですがカノンは、大勢で重ねることも可能です。参照：第18弾、28声のカノン)

「エチュード」とは？

19世紀にできたジャンルのようです。クラシック音楽の黄金期ロマン派のころ。

技術習得用(ピアノならハノン)と演奏会用(ピアノならシヨパン練習曲集など)に分かれます。(Wikipedia)

バイオリンのエチュードとしては、技術習得用しか載って

いませんでしたが、京端レベルでは知らないものばかり。でも超絶技巧のパガニーニの名があり、難易度の高い技術を習得するためのものと推測できました。

19世紀の西洋音楽は、規模と技術の躍進があり、作曲家は芸術家、名前が前面に出ます。音楽学校が各地にできました。練習曲が必要になったわけです。

一方、パツヘルベルのカノンも、もつと古くて、18世紀になろうとするころの音楽。バロックの後半。

ジャンルとしてのエチュードはまだありませんが、楽器は演奏されておりましたから、習得のための方法がなにがしかあったはずですよ。

お得意様は教会や王侯貴族。音楽家は職人。ルーチンやイベントの作曲と演奏、オルガンのメンテナンスに加え、音楽教師も重要な仕事だったことでしょう。貴族の子弟に、たしなみとしての音楽を、教えることです。

ちなみに、パツヘルベルは「音楽の喜び」というアマチュア演奏家向けの室内楽集の楽譜も出しています。

パツヘルベル先生の曲は、人気があったかもしれませんが。信奉者がうまく弾けるように気のきいた練習曲を作った、なんて可能性は、けっこうあるのではないのでしょうか。カノンには難しいテクニクは入っていないと思うし、また、いろいろな楽しみ方もできるので、アマチュア練習曲としてもつていいです。

練習曲としての構成をみましょう。4, 5頁参照。
3小節目からバイオリン譜です。(冒頭2小節(BASS)は、通奏低音でチェロのパート、曲の最後まで28回繰り返します)

4小節ごとに課題が変わります。14の課題に分けてみました。(13番目だけ2小節)

カノンはバイオリン3つの曲ですので合奏練習もできます。通奏低音はチェロが担当します。といってもレラシファソレソラの8音を繰り返すだけです。

漫談 (Rob Paravonia) ネタになるくらいチェロ奏者には、つまらないパートのようですが、「練習」とすれば、この単純な繰り返しにも意味がでています。

そして、京端的には、かねがね思っていた疑問に説明がつかしました。個人的妄想的解釈ではありますが：

6番目の課題である「休符と8分音符の繰り返し」です。他と比べてあまりにもスカスカ。休符があるのはここだけ

(実際には他に2か所)。それも最高速の32連符のあと。これはいったいどうしたことか。音楽的效果とか手休めといった曲作りのコツなのだろうか。はて？

この都度、こう閃きました。

休符というものの、自分のようなリズムやテンポの苦手な人間には、確かに難しく、ひとり弾きでも、そして、合奏ならなおさら、耳を澄ませても他の音がごつちやに押し寄せ、間合いを見失い、はずしてしまふ。だから、練習が必要。つまり、ここは休符と間合い練習なのです。

では、カノンのあとのジグとは、いったい何者なのか？カノンはジグとセットで作曲されています。

ハハ、早くもエチュード説は破綻か。

国際音楽ライブラリーの写譜をあらためて確認。

楽器構成は一緒ですが、曲の印象はまったく異なります。

3拍子系で、特徴的な弾むようなリズムと三連符。一小節にいったい音符が詰まっています。難しい練習のための曲か？

調べるとフーガとしての作曲だそう。

カノンでは、バイオリン三台で、まったく同じメロディーを時間差で重ねますが、ジグはそこまで厳格ではなく、規則はあるものの異なるメロディーが3つ、時間差で合わされています。また、通奏低音も、オステイナート（繰り返し）ではありません。

試しに、バイオリン部を弾いてみると、譜面上の音符の混雑度合から受ける印象よりも、平易でした。初心者レベルの京端がなぞれる程度です。カノンとの難易度に極端な差はないようです。

カノンもフーガもバロック以前からあって、カノンの全盛期はバロック以前、フーガはバロック期も発展したと習った覚えがあります。音楽の源流や変遷を学ぶという意味でも、対にできる2曲ではありませんか。

練習曲第2弾にふさわしい、といっているのでしょうか。
とりあえずそうしておきましょう(苦しい?)

京端は、パツヘルベルのカノンについて、いつ何のために作曲されたのかを探っています。

例えば、第15弾。パツハの一番上のお兄さんの結婚式のために作曲された説(※)とか、当時としての超絶技巧奏者兼作曲家ビーバーへの対抗説とかを紹介しました。

※根拠は、「Johann Christoph Bach」シュルツ1985年

パツハ年鑑71号70頁の脚注79 (Wikipedia)
確認したところ、明確に記述されているわけではなく、結婚式に出席して曲を演奏したので、その曲の可能性があるということのようです。第18弾をご覧ください

仮に、カノン&ジグが、練習曲なら、いつごろできたのでしょうか。

アマチュア向け室内楽「音楽の喜び」は1695年に出ています。これはまとまった作品です。楽譜を見てないので、素人なりの検証すらせずに言うのですが、これに向けての練習曲、つまり、1695年近辺の作曲と推測できるかもしれません。

怪我の功名で新説（珍説！）を思いついてしまいました！

ともあれ、カノンの習得は、基本練習とイコールとの思いを強くしております。きれいに弾けないのは、基本がなっていないから、という厳しい現状も同時に認識することになりました。

さらさら星をりっぱに弾くこと、パツヘルベルのカノンをりっぱにひくことに、共通点があった（つもり）と、気をよくして、今回はこれにて。

了

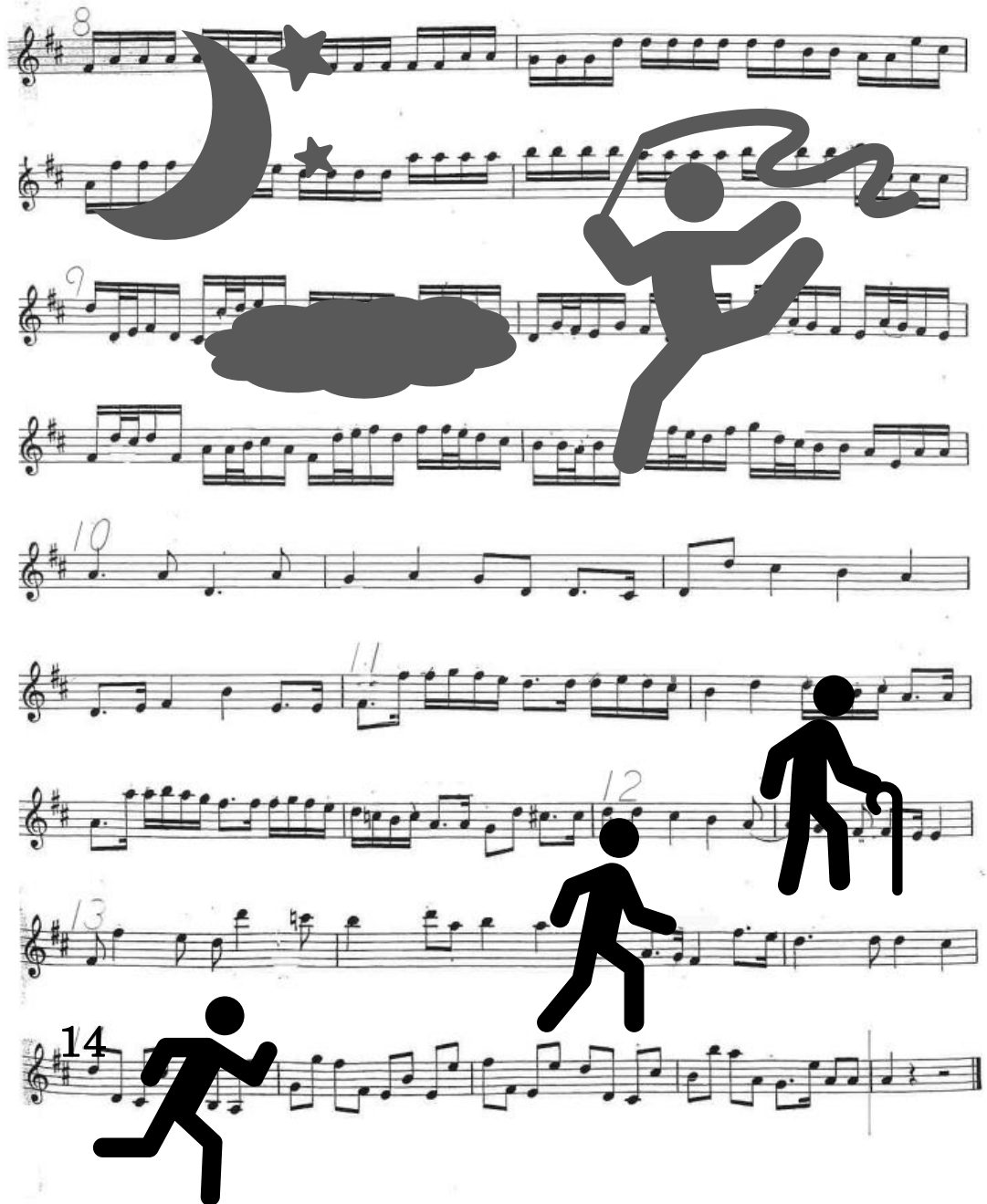
最後までお付き合い頂き有難うございました。

追：WIKIPEDIAの「パツヘルベルのカノン」をしばらくぶりに開いたところ、「再発見と名声の獲得」という欄ができていました。履歴を見たら、2020年の追記。作曲の経緯の3つの説も紹介されており、また、人気曲への節目の演奏も記載されています。

このような書き方だと削除されないのですね。

というのも、昔、有志の方々が集めてくださった使用曲の一覧が、パトロールによってパツサリ削除されてしまったのです。一覧は、さる方に移されて、ネット上にまだ残ってはいるとは思いますが…

ともあれ、情報が増えて嬉しい！



パッヘルベルのカノン エチュード説

課題の構成を示す図

The image displays a musical score with seven numbered sections, each with a corresponding icon. Section 1 is a bass line labeled 'BASS'. Section 2 is a melody. Section 3 features a hand holding a small plant. Section 4 is a melody. Section 5 shows two stylized figures dancing. Section 6 is a melody. Section 7 depicts a figure crawling and another crouching. The score is written in treble and bass clefs with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C).

森ちゃんシリーズ

熱帯夜に枕並べて 〔森と沼田編〕

秋楽和音

2. カメラ

夏休みが終わって新学期になると、沼田と佐々木の関係がすっきり変わっていた。

飲み会仲間が驚いた。

沼田の隣にシンが座ったのだ。

「どうしたんですか、佐々木さん。いったい、ぜんたい、こいつの隣にくるなんて」

谷村が声を上げた。

「いつも、とおくいとところにいたのに」

「監視だよ、監視。押し付けられるのは結局、俺。なら、初めから飲ませない方がいいだろ」

「そういうこと。毎回シンに迷惑かけちゃ悪いし」

にこにこ、沼田がいう。

「佐々木さんから、シンに変わってら」

「犬猿の仲かと思ってたのに」

「違う、違う、沼田が相手にされてなかっただけ」

「保護者ができて助かった。俺もやっと解放された」

口々に言う。

「勝手に言ってる」

途中駅のせいもあり、シンは沼田のところに、しばし寄るようになった。

かたづけられないたちの部屋は、すでに足の踏み場がない。最初に来たときのキッチンとした佇まいは、単に引越しの直後で、

それも、家族が手伝っていった後だったから、というのが真相のようだ。

かたづけると言ったが、沼田は「今度」としか言わない。

ねじれた掛布団に洗ったのか洗ってないのか分からない衣類がくっついていて。そのまま二つおりにして、できた空気に腰を下ろす。夏休みのはじめ頃には、沼田がササッと折って、さ、どうぞ、どうぞ、などと言っていたが、今ではコミックに目を落としたまま動こうともしない。

ちようど、座卓の反対側で沼田と向き合うことになるのだが、その座卓の上や下や右左も散らかっている。

無意識に、崩れた山を積みなおしたり、稜線をそろえたり、ぐちゃっと絡まった布類をたたむシンの周囲は、帰るころには整った雰囲気になる。

部屋の要所に要所に、順繰りに座わってくれば、すぐ整理整頓されるのになあと、沼田は考える。

ビデオとカメラ。

部屋の中で、目を引くのはこのふたつ。

ビデオは、専門学校へとつながった沼田の趣味だ。

中高と作品を作った8ミリカメラ。そして再生装置類。学生の身分としては、少し贅沢な品揃えかもしれないが、プロを指しているのだからと考えれば、納得できる。

では、カメラは？オートフォーカスの一眼レフなのだが。

映像と写真。似てはいる。

「シン、外へいこう」

カメラを提げて靴を履いた沼田が玄関で、手招きをしている。

「いきなり何」蛇口をひねりながらいった。

「いいから、いいから」

洗ったコップを流しの棚に伏せて、振り返ると、沼田がいな

い。

窓からのぞくと、もう階段の下にいる。

「公園で花でも撮るのか」と叫ぶ。

「くれば分かるよん」

なら、窓くらいしめてけよ、と思いつつ、留守支度をして出ると、公園とは逆の商店街の方に歩きだした。昼にハンバーガーを買った店も過ぎ、地下鉄の駅を降りていく。

券売機までくると、表参道までの切符を買えと言う。

「何しにくんだ？」

「着いたら分かるよん」

地下鉄の轟音の中ではしゃべる気にもならず、横目で沼田を観察してみた。沼田はポケットから取り出したフィルムをセットした後、カメラのあちこちをいじっている。

遠出が当初の計画なのか、思いつきなのかは知らないが、上機嫌だ。

地上に出ると、山の手線方面に向かって歩く。

今日は、休日、秋晴れで、結構な人出である。

沼田は、ミニスカートの2人ずれに声をかけた。

「ねえ、写真取らせてくれない」

まずは、断られる。

何度か断られたのち、沼田は方針を変えた。

「お前、やって」

シンが声かけ役をやらされた。

目的はこれだったのか。

夕方、「今日の収穫」といって沼田は、写真を見ている。一本24枚を取り切り、スピード現像に出して上がった分だ。

「この子たち、可愛いよな」

お茶に誘ったが、今日は用事があると去っていった。

「ドライブに誘おつと。えつと、住所と電話番号、どこだっけ」

「お前さ、ナンパするなら、お茶しない？で済むだろう」

「だってえ、恥ずかしいんだもん」

ウソブク沼田を。シンはじいっとみる。

「モデルになってと言われたら悪い気しないし、課題にご協力くださいって感じだろ。いいと思うんだけどな。しかも、写真送ったげるよ、連絡先聞けるし」

「声かけたとたん、キャッチセールスかと警戒されてたじゃないか」

「そういうときは、映像学科の学生証が役立つわけよ」

「もしかして、前からやってた？」

「岡村とよく来てました・・・」

「こつちくる前から？」

「あはは」

「埼玉からわざわざ、ご苦労なこったね」

それから、思い出して、シンは言った。

「それで、よく受験勉強する暇あったな」

「ふん、俺は男だ」

「わけわからん。日本語がおかしい」

つづく

SFというものに

丘乃恵

疲れているせいなのか、センスオブワンダーの受容体に栄養がまわっていない。

そのせいか、SF界も成長期を過ぎ、波はあっても、衰退期に入った感覚を持つてしまっている。新作もたいして読まず、SF史も系統も知らないのだけど。SFファンです。

たぶん、ウクライナとロシア、中国対アメリカ、日本国の沈下というニュースの中で、偏桃体が騒ぎすぎているのだろう。コロナもありま(した)す(す)し。

よその国の科学技術と商魂が侵襲し、望まずとも書き変わっていく生活空間。構成要素である物質・非物質のガジェットは置き換えられ、価値感を換えれとの強迫あり。そんな勝手なと内心のレジスタンス、とり残される恐怖、などなど。

恵まれている国の恵まれている日々ではあっても、ちつとも、落ち着いていられない。これが疲弊の原因のひとつにありそうではある。

銀行って10年後にあるの？

現金はずっとあるのだろうか？デジタル化⇨管理化。何事か起きるかもしれない。

最近こんな税の可能性を何度か見聞きした。
預金にかけられる税金。預金とは、各種税金を払った後に残るお金である。

貯蓄税とか言うらしい。

そんなことまでする？

利息にかけても今日税収入にならないから？

余裕(収入から生活費を引いた額が、貯蓄税より多い)があ

れば、お金は増えるだろう。しかし、仕事引退の日がいつか来る。たちまち、蓄えは減っていく。

率7パーセント年税なら、約10年毎に半減強。

60歳の退職金1000万円、置いておくと90歳で120万。880万を納税。人生を100年で終えると、残ったわずか60万円程が相続される。大きなルール変更である。

持っている人は、施行前にあわてて使うのだろうか。

マイホーム積み立てなら、購入の決断を早めそう。

でも、予備費であれば置いておくしかない。また、物が増えてもやっかいなだけと考える人もいるだろう。

こんな不利益がある。

先の例、60歳だったら1000万円を選べる先進治療が、90歳では選べなくなる。もつと安い治療しか選べない。超高齢者に治療など不要という考えか？実際、今日、善意の理由で超高齢者の積極的治療は控えられる傾向だが。

はて、どんな理屈や保障で、個人の財産を削り取り、結果、選択子を奪う所得税というものを正当化するのだろうか。

貯蓄税があっても、余裕があれば、預金はできる。正月から師走までの短期積み立て。年末には使う。でない翌年目減りするから。

一年積み立てで間に合わなければ、ローンを選ぶだろう。それとも税金を織り込んで貯めてから買う？

貯めてから買うという美德でもあった行動はなくなり、借金状態の人が増えそう。利子は無くしてくれるのだろうか。

年越しの銭はもたぬ、それが国民の粋？

役所の年度予算からの発想なのだろうか。年銭で暮らす国民の国家。アリからのキリギリス化か。

あの話、冬に備えましよう、って教訓だったのではなかった

か。アリが備えをした先は、実は公共倉庫（実際にどこなのか筆者は知らないけど）と気づいた公なのか。

ゆりかごから墓場までの社会保障が完璧ならともかく、人がお金を貯めるのは、一般的には、まさかのときや老後のためだろう。買いたいものを我慢し貯めるのである。

どこかの国ならともかく、今、社会保障にそこまでの実力があるのだろうか？

普通に考えて、このような税、お金持ちが反対するのではない。政治家のスポンサーは財持ちではなかったか？アメリカなら絶対とおらないと思える税だ。

それなのに、最近、目に触れるようになったのは、なにがしか民が納得できる工夫、あるいは、抜け穴（超お金持ち用？）があるのかもしれない。

今は、単純に預金の7%年税と考えたが、実際には、もっとおだやかで細やかな設定があるのだろうか。

使わないなら、公が有効に使ってやるよという税？

所得税との違いは使う気なら使えろということ？

余っているお金なら他人の役に立てましようという税？

富の再分配ということ？

それはそれでいいかもしれない。ちゃんとやるなら。

ベーシックインカム導入か。そして教育、医療、介護の無料化か。

ところで、頑張っている自分へのご褒美として、貯蓄の増加を喜ぶ人は多いに違いない。今度は何を報酬にするのだろうか。給与額？ルールは変更されてもやっぱり貯蓄額か。いやいや、他人の役に立つこと、労働自体が報酬と認識されるようになるのだろうか？

経済も福祉も、やる気も、ちゃんと回るだろうか。

過渡期に混乱しないか。固定資産が土台の家族事業。貯蓄税で減った蓄えで相続税払い継承できるか。法人は貯蓄税の対象になるのだろうか。

制度についてのシミュレーションSFには興味がある。

科学についても、社会科学方面のSF。

税制についても、作家ならではの知識と柔軟な発想で、何かコロンブス卵的な発想が出てくると面白い。現実にはピカッと光がともることもあるかもしれない。すでに、あるだろうか？

◇

何年前かに、近未来社会を描いた番組を見た。トイレが本日の健康状態をしゃべって、夫を会社に送り出した妻は自宅で洋服のバーチャルショッピング、街を歩く先に個人の指向に合うCMがきらめいていた。

なんだかつまらない、と思ったものだ。

なぜか。

未来になっても、女性は家にいて、関心は、おしゃれやお洋服という設定。高度成長期とバブル期を合わせたよう。SF番組じゃないから、文句はお門違いかもしれないが、当時でも皆が思っていた近未来のジェンダーはもう少し違ったように思うのだが。ギャップ指数も最下位だからなあ。

未来社会を舞台にした、かつ、ジェンダー自由度の高い群像劇というのを見てみたい。社会制度の細部と問題とその解決を書いたフィクションを希望。

◇

選挙のたび思う。政策の細部が不明で、どうやって投票した

らいいのだろうか、と。

党の公約、例えば「豊かな社会を実現します!」「消費税廃止」と言われても、具体的などころ、道筋や伴う課題はわからない。

政党のホームページをチェックしたこともあるが、概念図って感じで、実現度を判定できる事業計画は見つけられなかった。

公約やお訴えが、マントラに聞こえてくる。
信じよ、という。

とはいえ、詳細が提示されたとしても、みんな忙しいし、また、量も膨大だろうから、見ているヒマもない。

何かこのへんに、民主主義の生物学的限界を感じてしまうのだが。

目のつけどころが間違っていますか？

見た目(外見、言葉の印象やオーラ)や、自分のカンや、現政治への満足度で投票しておけばいいのだろうか。それが最も有効な選び方なのだろうか。

家族や友達の言葉は、詳細など分からなくても、信用したり信用しなかったりするのなぜか。日頃から知っていて性格もわかっているのに、ホントかウソかが、分かるから？

家族、友人等などの人間関係の中で、子供のころから、いい実力者を見抜くトレーニングし、大人になっても継続するしかない、ということか。見る目を磨く? なんかなあ。

過去に、政権が民主に交代し、自民に戻ったとき、世の雰囲気が変わったことは、肌で感じたものだ。だから、政党の実力に差があると思つた。当たり前と言えば当たり前。それは政党の評判や印象とも一致しているようではあつた。

だからといってオーラとマントラの比較を元に候補者を選ぶのもちよつと違う気がする。それ以外の何か、知的、科学的、客観的に判断できる材料が必要と思えるのだが、誰か、アイデアを持つていないだろうか。

◇

少数意見の尊重というのは、多数決の原則だが、マイノリティにとつて多数決は、実現や自由の妨げであり我慢である。これも真ではないだろうか。そういうときは、21世紀初頭の今現在、更にもつと主張するとか、メジャーである分野で気分を晴らすとか、新しい分野を開拓するかが推奨されるようだ。

東に行きたい95人マジヨリテイと西に行きたい5人マイノリティ。5人は東に行くのか、それとも分離するのか。東に行きたい50人と西に行きたい50人。戦うのか、分離するのか。政策決定、言葉を尽くして議論とは理想的だが、難易度は高いと思える。

科学技術が進んで、ワープ航法の時代にでもなれば、移民実験ができるだろう。「闇の左手」ゲセンは実験惑星。

近年聞くようになった言葉にサイコパスがあるが、それを見極めるような技術ができたなら、同時に、同志判定もできそうだ。遺伝子的に、生育環境的に、脳科学的に、など多角的に判断されるのではないだろうか。

例えば、牧歌的に自然の中でボチボチ暮らしたい、富はなくとも自然の恩恵を満喫したい、などという同志を判定して、どこかの惑星に移民することが可能だろう。自然を邪魔せずに暮らす心と知恵そして技術がある人々ばかりだ。ありとあらゆる角度から分析したから、仲間内から、資本主義や改造主義者があらわれて、環境破壊や製品開発競争に悩まされる事態が起こることはなからう。

というように、資本主義惑星(誰が資本家で誰が労働者、誰が消費者?)や、共産主義惑星、自由主義惑星もできる。もちろん東に行きたい人の惑星も、西に行きたい人の惑星だって。

そういった同質惑星社会に発展があるかどうかはともかく、志向に沿った生活が持続可能になるかもしれない。

とはいえ、支配欲求の強い人々が集まる惑星は懸念事項だ。惑星内での権力争いを繰り返すだけでなく、他の惑星、例えば、攻略が簡単そうと牧歌惑星を狙う可能性は高い。宇宙制覇を目指すかもしれない。宗教惑星なんかも同様。全宇宙への布教に命をかけるかもしれない。

となると、やはり、他からの侵襲を防ぐ対策は必要だ。隠れるとか、武装するとか。

「三体」でもそんな感じの原理があった。少数者の自己実現。惑星移民で解決するかもと思ったが、持続を保証する完全な平和永遠の平和などというのは、あり得ないということか。

衣食住に困らない魔法のような科学技術があれば、例えば、光に当たれば食事不要で、指を振れば生活道具が空中に3D印刷されて出てくるような。

そうなら、究極は、一人惑星でもかまわないかも。魔法で、自分好みの社会を生み出せるかも。パーチャルか、生物レベルかわからないけど。

工夫すれば危険人物の閉込めにも使えそうである。実は、すでにそんな惑星にいるのかもしれない。と、考えてみるとまあ、空恐ろしい。

◇

パートナーシップ制度(2015年に一部自治体で開始)は、今では全国の多くの自治体で採用されているそうである。大きな前進だという。でも婚姻とはまったく別物で、例えば相続はできないそうだ。

婚姻で認める権利義務を、男女以外の組合せに適用すると何が困るのかは、個人的にはよくわからない。実際に起こっている問題が解決されるのに。そもそも、なぜ、その権利義務を男女の婚姻に限定しなくてはならないのか。単なる権利と義務の契約ではないか。または、と考えればよいではないか。もし、伝統的婚姻への神聖視にこだわるなら、それはそれで残して、同じ機能の性別問わない汎用法制度を、別の名前で作って見たらどうか。伝統的婚姻でも、LGBTQの恋愛婚でも見合い婚でも、また、友情婚全般にも対応できる。助かる人が大勢いて、その結果、暮らしやすくなる人が増え、国の活力が増えると思えるけど。

◇

人類の自己家畜化を説明する処刑仮説というものがある。暴君を処刑していったことで、狂暴・支配の遺伝子が除かれていったという説だ。(処刑は一族郎党に及んだのか?) 筆者の理解によれば。

余談だが、極貧の山村を描いた映画「檜山節考」では、盗み食い遺伝子が家族丸ごと処刑されていた。

※家畜化は、人間が、動物の支配を管理して、自分たちに役に立つ動物集団を作る作業。ぎゅうぎゅう詰め(の舎に大人しく耐え、早く育つて、おいしいミルクを出す牛とか。性格は、おとなしく友好的。色が白くなるとか、子供っぽいことも特徴。また、人によらずこれら性質を獲得することを自己家畜化という)で、犬、猫、ボノボが、自己家畜化の例としてあがっていた。Wikipedia.

筆者は「家畜化」はユニークな考えと感じた。そして、当の人間にも家畜の特徴があるというからまた驚く。ところで、人類の近縁は、チンパンジーとボノボ。

ボノボは平和の象徴。序列や支配がまったくないのか詳しくはわからないが、雄雌格差は少ないとあった。かたやのチンパンジーは、攻撃性と序列が特徴的。雌雄格差大。

家畜の特徴のひとつは、大きな集団を作れる、だ。

確かに、人類は、大きな集団を作ることができ、過密にも耐える。軍隊とか。万人コンサート、うさぎ小屋と言われたアパルト、満員電車とか。会社や国、国連、人類という概念もその延長かも。球には空地無く国が込み合っている、と言えよう。一方で、戦争・紛争をはじめ争いごと（縄張り争いか？）はある。支配者もいる。支配にあたる位置が存在する。暴君的な支配も少なくはない。序列。ジェンダーギャップ、格差、階級。人類には、ボノボ（平和）、とチンパンジー（支配、狂暴）が、両者存在しているように感じられる。一人の中に、両方があるようでもあり、その配分で個人のふるまいが決まるようでもある。

この先はどう変化していくのか。家畜化は続くのか。

処刑仮説について、人類のなかのボノボとチンパンジーで組み合わせを考えてみた。

- ① チンパンジーがチンパンジーに対して行う処刑（暴君の排除、権力闘争）、
- ② チンパンジーがボノボに対して行う処刑（気に入らないだけ？）、
- ③ ボノボがチンパンジーに対して行う処刑（不当な支配の排除？）
- ④ ボノボがボノボに対して行う処刑は、原因自体が考えにくいので省く。③の処刑を実施するボノボは実はボノボではないという可能性もあるが無視する。

この先、何がどう優勢になるものなのか、見当もつかない。チンパンジーは残り続けるのか、排除されていくのか。支配は指導に変化するのか。

社会的な排除も処刑仮説の処刑に当たるとはだろうか。処刑仮説というものは、小集団の時は、特定遺伝子の排除に効いたかもしれないが、規模があるときに効果をもつのだろうか。

また、処刑仮説以外にも、遺伝子に影響する状況はいろいろあるから、かなり複雑なことになる。

SFなら、遺伝子デザインも取り入れるだろうし。それに、遺伝子以外の要因がないとも言えない。

AIなら何か予想してくれるだろうか。

自己家畜化の例であるイヌ・ネコは、実は人間の家畜という面が大きいそうだ。

家畜化が可能な動物の特徴のひとつは、序列をもつことという。トップの位置に人がおさまることによって支配できるという。家畜化したということは、人類は序列や支配をベースとする生物ということだろう。そこから離れることはできないのだろうか。

離れられないとしても、ボノボを支配するチンパンジー社会は遠慮したいものだ。ベン図というなら、チンパンジーがボノボに包含されるほうがいい。不幸な目にあう機会が減る気がする。法とか神とか他にも、支配者候補は今日他にいくつがあるかもしれない。

ボノボの自己家畜化（人間より、序列や支配、暴力がなくなっているように見える）は、脅威や飢餓の心配がない生息域にいたおかげらしい。平和実現のバイオミメティクスができる

か。

◇

自分の敷地内の平和さえ乱されなければ、ほんとうは、文句はないと思う。でも、生れ落ちてから死ぬまでの間、平和が続くことは少ない。

しかも、球が狭い現在、球に平和に保たれなければわが敷地の平和もない、そうと脳みそが、認識している。

そして、日々不穏なニュースが伝えられる。

家族ならせいぜい数人、町内なら100人。

球は人口80億、200か国、周囲4万キロ、紀元後の有史だつて2000年もある。

そしてやりたい者を止めることはできない。

そんなことに日々気を配って生活するのは、生物学的にかなり無理な状況じゃないのかな。

ついつい、暗い部分をクローズアップしてしまう丘乃である。毎度同じことを書いている気もする。反省。

ユートピアなSFから現実を紡げたらどんなにいいだろうね、「宇宙大作戦」ワクワクします。

終

情報元は主に wikipedia です

未来世界仕様書は文芸雑誌です
お気づきの点がありましたら下記までお知らせください

未来世界仕様書 Vol.26 ver.1.0

発行:丘乃恵

2023年5月21日

Mail: mgz.fwspec@gmail.com

Twitter: [@OkaNoMegumi](https://twitter.com/OkaNoMegumi)